

第20回 ふるさと見て歩き
O・D・ビクスラーと長沢



▲長沢に建つアンナ婦人の記念碑

大正十一（一九二二）年、長沢の地にアメリカ人宣教師の夫婦が移り住みました。

茨城県北部を中心に、更には東京でも人道的に大きな功績を残したビクスラーの足跡をたどってみましょう。

◇長沢にきた外国人

オーヴィル・デイン・ビクスラーは生国アメリカで神学を修め、大学時代に師から聞いた日本伝道の話に触発されて日本にやってきました。都市部に比べ伝道の遅れている地―茨城の北部をその地と決めました。同時に来日した宣教師たちは、太田・大宮・棚倉・大子などを拠点として布教活動を展開しました。

ビクスラーの活動において重要な役割を果たしたのが長沢出身の平塚勇之助です。平塚は、明治末期からこの地域にキリスト教を広め、その基礎を築いていました。地元の信者とともにビクスラーは布教活動を始め、長沢を拠点に塩田、山方、小瀬へと伝道し、のちには鳥山、茂木にも教会を作ったようです。現在はほとんど残っていませんが、大正から昭和初めの市内にはいくつものキリスト教会があり、多くの外国人伝道師が活躍していた時期があったようです。当時の市内では、外国人宣教師はさぞ珍しかったのでしよう。連日のように見物人が来たそうです。中には弁当持参の人もいたとか。ビクスラーも、長沢での生活の中で地元の人々と親しく交流し、日曜礼拝などにも信者が集まるようになったといえます。

ビクスラーは栄養状態のよくない当

地の食生活の問題に心を砕き、教会の隣に「ヘルス・フーズ・インダストリー」という自然食品の会社を興し、昭和五年から操業を始めました。この会社は彼の死去する昭和四十三年まで存続したそうです。原料となる牛乳を得るため、太田に牧場とミルク処理場を開くなど、県北部の各地に彼の思想に基づく施設がありました。

そのような熱心な慈善活動にもかかわらず、戦時中はスパイ容疑をかけられ、一時帰国を余儀なくされました。さらに、アメリカでの活動中には本国から日本のスパイ容疑をかけられるなど、彼の戦中は苦難の連続だったようです。戦後はマッカーサーの招きによ



▲アンナ・ビクスラー記念館の柱に残るメモリアルプレート（那珂市額田・チルドレンズホーム内）

り早くも昭和二十一年に再来日し、キリスト教宣教師代表の二十名のうちの一人として日本の復興に尽力しました。その後、日米間を四度にわたり往復し、再び長沢の地に戻っています。

◇ビクスラーの残したものの

ビクスラーはほかに数々の活動を展開しました。敗戦直後、問題となっていた戦災孤児を養育する施設「チルドレンズホーム」が昭和二十二年に額田（那珂市）に作られました。ビクスラーはその開設時から創設者である鈴木通夫氏に協力し、運営に携わりました。長沢の教会兼住宅も、彼が帰国する際にチルドレンズホームに寄附されました。「ビクスラー記念館」として移築されました。現在も一部が保存され、使用されています。

また、日立市のキリスト教学園、東京御茶ノ水のキリストの教会などを設立し、那珂市の福祉施設の運営にも携わりました。大正期から五十年にわたる日本への功績に対し、死去の同年には勲四等旭日章が贈られました。

ビクスラーの長沢教会跡地には、彼が夫人アンナのために建立した記念碑が今でもひっそりと建っています。

※国松サタ氏、チルドレンズホーム職員の皆様に聞き取り調査にご協力いただきました。

（歴史民俗資料館）